

名桜大学、認証評価の最新動向を探る——令和6年度第2回FD/SD合同研修会を開催

2024（令和6）年8月29日、名桜大学において第2回FD/SD合同研修会が開催されました。本研修会は、2026（令和8）年度に控える大学機関別認証評価に向けた準備を目的とし、教育研究活動の質を一層高めるために、認証評価の専門家を招いて行われました。

今回の研修会には、名桜大学の専任教職員および非常勤講師が多数参加し、対面とオンラインの両形式で実施されました。会場となった講義棟110教室には、研修を受講する教職員が集まり、またオンラインで参加する者も多く見られました。最終的な研修参加者は67名でした（参加率63.2%）。

冒頭、本学事務局長の池原秀人氏による開会の挨拶に続き、総務企画部長の根間朋江氏が登壇し、今後の認証評価スケジュールと、名桜大学が取り組むべき準備の方向性について説明しました。根間氏は、具体的な申請時期や評価基準について詳述し、参加者に認証評価の重要性を改めて認識させました。

続いて、一般財団法人大学教育質保証・評価センター代表理事の近藤倫明氏が、「認証評価の最新動向」をテーマに講演を行いました。近藤氏は、2024（令和6）年3月に文部科学省の細目省令改定に基づく第4期認証評価が開始されることに触れ、その影響と対応について解説しました。さらに、地独法と学校教育法に基づく評価の違い、そして認証評価受審時に求められる「内部質保証」の重要性についても詳しく述べられました。

近藤氏の講演は、認証評価に関する法的枠組みや、評価基準の変遷に関する詳細な説明を含み、特に「内部質保証」がどのようにして大学改革や教育の質向上に寄与するかについての解説は、参加者にとって非常に有意義な内容でした。また、近藤氏は、名桜大学が今後認証評価を受けるにあたって、どのような準備が必要か、具体的なアドバイスも提供しました。

質疑応答の時間では、参加者から活発な質問が寄せられ、講師の近藤氏が一つひとつ丁寧に回答しました。これにより、参加者は認証評価の実務的な側面に対する理解を深めることができました。

閉会の挨拶では、砂川昌範学長が登壇し、今回の研修会を通じて得られた知見を大学の今後の取り組みにどう生かすかについて述べました。砂川学長は、認証評価が名桜大学にとって重要な節目となることを強調し、2026年度の受審に向けた準備の意義を改めて確認しました。

研修会終了後、参加者からは、「認証評価についての理解が深まり、今後の準備に向けた具体的なイメージが得られた」という前向きな意見が多数寄せられました。一方で、オンライン受講における技術的な課題や講演進行のスピードに対する改善の要望もあり、次回の研修会に向けた運営の向上が期待されています。

今回のFD/SD合同研修会は、名桜大学が目指す教育研究活動の質向上に向けた第一歩

として、大きな成果を挙げる機会となりました。今後も本学は、認証評価に向けた取り組みを継続し、教育研究活動のさらなる発展を図っていく予定です。

2024年8月29日

文責：副学長・名桜大学FD委員長 木村堅一



研修会の様子